

第24週の発生動向 (2005/6/13~2005/6/19)

1. 咽頭結膜熱は、上十三保健所管内とむつ保健所管内において引き続き**警報**が出されています。
2. 水痘は、五所川原保健所管内において引き続き**注意報**が出されています。
3. 手足口病は、弘前保健所管内において引き続き**警報**が出されています。
4. 伝染性紅斑は、青森保健所管内において引き続き**警報**が出されています。

第24週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ			1	0.06									1	0.02	-3
(60) 咽頭結膜熱	7	0.88					5	0.83	4	1.00	16	0.38	7		
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9	1.13	27	2.70	2	0.22	1	0.20	10	1.67	49	1.17	13		
(62) 感染性胃腸炎	34	4.25	5	0.50	9	1.00	4	0.80	13	2.17	16	4.00	81	1.93	-5
(63) 水痘	7	0.88	30	3.00	28	3.11	30	6.00	8	1.33	8	2.00	111	2.64	-3
(64) 手足口病	1	0.13	38	3.80	15	1.67	1	0.20	4	0.67			59	1.40	-14
(65) 伝染性紅斑	23	2.88							4	0.67	3	0.75	30	0.71	1
(66) 突発性発しん	2	0.25	7	0.70	5	0.56	3	0.60	6	1.00	3	0.75	26	0.62	2
(67) 百日咳															0
(68) 風しん					1	0.11							1	0.02	0
(69) ヘルパンギーナ	2	0.25	11	1.10	2	0.22			3	0.50			18	0.43	10
(70) 麻疹(成人を除く)															0
(71) 流行性耳下腺炎	1	0.13	1	0.10	6	0.67	9	1.80	10	1.67	4	1.00	31	0.74	5
(73) 急性出血性結膜炎															0
(74) 流行性角結膜炎	1	0.50	1	0.33									2	0.18	0

保健所名	定点数				
	インフルエンザ (小児科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
青森	13	8	5	2	1
弘前	16	10	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
合計	65	42	23	11	6

は警報 は注意報 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (17年計には、今回届出された人数を含む)

(82) マイコプラズマ肺炎(五類基幹定点把握疾患) 八戸保健所管内: 6人 (17年計 52人)

感染症の窓 破傷風 (tetanus)

破傷風は、破傷風菌 (*Clostridium tetani*) の感染により3~21日の潜伏期間を経て発症します。1950年には全国で約2,000人の患者が報告されていましたが、1968年に定期予防接種が開始されてからはかなり減少しました。しかし、破傷風菌は、土壌中に広く分布し、創傷部位から菌が体内に侵入することにより感染します。毎年高齢者を中心に数十人の患者が報告されています。(図1、2)

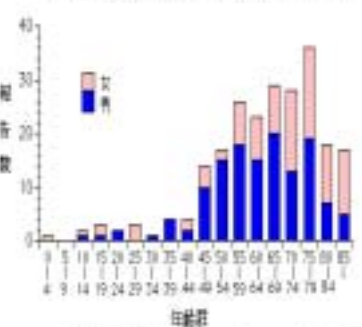
土と接する農作業、アウトドアスポーツ、ガーデニング等をされる場合は注意する必要があります。

症状: 先ず、口を開けにくくなり(開口障害) 首筋の張り、寝汗、歯ぎしりなどの症状が出ます。次第に開口障害が強くなり、顔面筋の緊張、硬直により、あたかも苦笑しているような表情になります。そして、頸部硬直、背筋の緊張や強直が生じ、発作的な痙攣がみられ、死亡する場合があります。

予防法: 破傷風トキソイドワクチンの接種により予防できます。

(参考: 国立感染症情報センター週報)

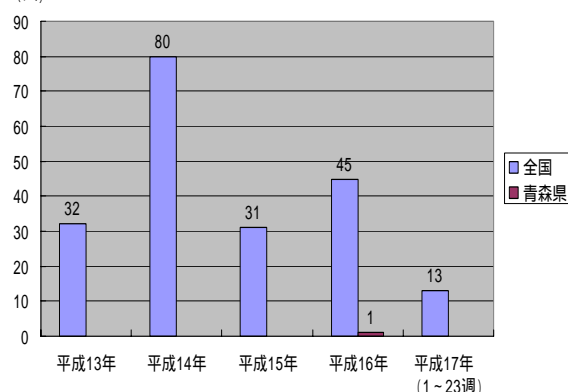
図1 破傷風患者の年齢, 1999年4月~2001年11月



(感染症発生動向調査: 2001年12月3日現在報告時)

(国立感染症研究所ホームページより転載)

図2 (人) 過去5年間の破傷風患者数



(1~23週)